

## おおえだ け 大條家ゆかりの茶室

# 私達はこのように 関わってきた

～令和4年度の利活用開始に向けて～

あいうえお順

1. 坂元神社 p3-4
2. 徳本寺 p5-8
3. 山元町指定文化財茶室等整備・活用検討委員会 p9
4. 山元町ふるさと歴史学習会の活動のご紹介 山元いっつ茶組から p10
5. ゆかりの茶室にひかりをあてるっちゃGO 山元いっつ茶組 p11-12

令和4年度には茶室の復元・活用開始という、役場からの具体的日程発表が出されている現在、まさに町内全体が茶室への関心をいっそう高め、具体的活用について考える段階です。これまでの茶室復元・活用に向けての活動が、町民一人一人に見えるように、町内で「茶室」と関わってきた複数の団体の方々に、今までの茶室との関わりの歴史や、これからの希望・期待などを書いていただいております。

2020年10月31日  
作成：山元いっつ茶組  
印刷協力：坂元神社社務所

茶室なの？  
どんな

- 仙台藩の茶の湯の歴史・文化を伝える唯一残る茶室
- 伊達政宗が豊臣秀吉から拝領したとの伝承がある茶室

# 町の誇り、自慢の茶室 皆が楽しくつどう文化スポットにするために

茶室のことで知り、関心を持とう  
知恵をしぼって、自分ができるアクションをしよう

## 茶室の推移

天保3年 葦首城主・大條家(15代道直)が伊達家から拝領  
(伊達家跡継ぎ問題解決の褒賞)

仙台城下の大條家屋敷(川内)に移築

→明治21年 仙台市支倉町に移築

→昭和 7年 山元町坂元の葦首城三の丸に移築

★平成14年(2002年)山元町の文化財に指定

## おうえだけ 大條家とは

・仙台藩伊達家の御一家(藩政の要職につく一族)

・初代は伊達宗行。伊達本家第9代政宗の弟(室町時代初中期)

\*独眼竜・貞山公政宗は第17代

・1415年福島県梁川町大枝邑に所領。大枝姓を名乗る

その後、大条、大條と変遷。明治初に「伊達」姓に復帰

・1616年第8代大条宗綱、第17代貞山政宗から坂元に知行替を命ぜられる。以降、要害(葦首城)城主、奉行職を歴代継承

・2000石から4000石と禄高増。仙台城下に屋敷

・仙台藩の諸々の主要問題解決に活躍

・第17代大條孫三郎道德(最後の葦首城主)は、仙台藩主伊達慶邦を助けた戊辰・幕末処理の功績により、明治3年「伊達」(伊達宗亮)姓に復する

・現在、大條家20世は伊達宗行氏。物理学者、仙台藩志会会長。在仙台

# 一坂元神社とお茶室一

坂元神社は蓑首城の本丸に、お茶室は三の丸にあります。

蓑首城主・大條家城下の皆様とは、氏子の方々ともども、長いお付き合いの歴史があります。なにより感じるのが、皆様の城主大條家への深い愛情と敬意、そして、城下の歴史・文化への誇りです。

城主大條家が残した貴重な文化財(殿様のお宝)への思いも、ひとしお強いものと感じます。

「お茶室」はその象徴的な存在です。

氏子の方々、城下の皆様が大切にしてきたお茶室です。

坂元神社社務所



## 坂元神社の歴史と大條家

2020年10月

本社は、天正2年(1574年)3月22日、相馬盛胤の一族、坂元参河が蓑首城本丸に観請したといわれ、元、妙見宮と称した。真言宗金蔵寺が別当をつとめ、3月22日の祭礼には、本丸下に的山を築き、弓鉄砲、或は撃剣などの奉納試合があったと記されている。

坂元参河が遠田郡涌谷に移封された後も、城主となった後藤、黒木、津田、大條氏が皆、鎮守の神として厚く崇め祀った。

明治2年(1869年)、北辰神社と改称。明治42年(1909年)には村社神明社、愛宕神社をはじめ八社を合祀し、坂元神社と改めた。

明治44年(1911年)、旧城主伊達宗亮(大條孫三郎道德)氏より旧城域755坪を寄進された。

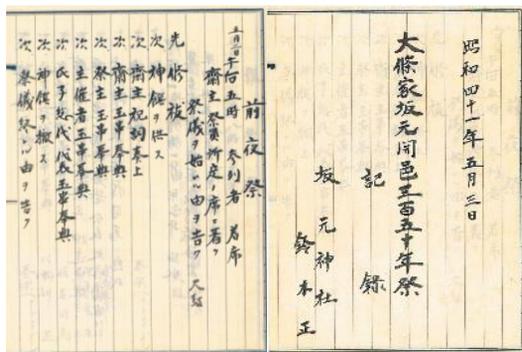
## 大條家、城下、坂元神社

(1)昭和41年(1966年)5月3日、「大條家開邑350年祭」が、坂元地区あげて盛大に開催され、伊達宗雄氏(大條19代)揮毫の記念碑が、坂元神社の境内に建立された。



河北新報

- ・河北新報は、前夜祭の花火大会、記念碑除幕式や仮装行列の開催を報じている。
- ・先代宮司による350年祭の記録は詳細で、城下の喜びと盛り上がりが伝わる。
- ・「大條家坂元開邑三百五十年祭小志」が刊行され、城下の心意気が随所に満ちている。曰く、『元和二年大條宗綱公坂元本郷に知行替仰せ付けられ、蓑首城に構居爾来治にあること茲に三百五十年、封建時代、民主時代と多くの歳月を経て今日に至った。(中略)その偉業を回顧追懐し現代的理解発展せしめ愛郷青年諸氏の意気発揚に資せんとす。…』





# 一徳本寺と「大條家」の歴史、そして「ゆかりの茶室」一

徳本寺は蓑首城主・大條家の菩提寺です。

大條家との関係の歴史や茶室保存への思いを、寺の機関紙「見星」にシリーズ化して書いておりますので、ご紹介させていただきます。また、テレホン法話でも折に触れて茶室にふれております。ご一読いただければ幸いです。

徳本寺 住職 早坂文明

2020年10月

(3)

No.1 2016年3月1日 平成28年3月1日

## 徳本寺坂元移転400年

### 伊達家と徳本寺

徳本寺は今から575年前の嘉吉元年(1441)、福島県梁川町大枝村(現在の伊達市梁川町)に、大條公の菩提寺として開創された。大條公の知行替えに伴い、元和2年(1616)に宮城県の現在地である坂元に移転する。徳本寺3世洞親曹大和尚の代である。今年が移転400年ということになる。当初は坂元南白小路にあつたが、そこで2度火災に遭い、その後現在の寺前に移転。移転年月日は不詳。現本堂は165年前の嘉永4年(1851)に建立されている。

歴史上、伊達政宗は2人いる。伊達家9代目と17代目が同じ伊達政宗を名乗る。ただ号は異なり、それぞれ儀山と貞山である。17代貞山公はご存じ独眼竜政宗で、仙台の伊達藩主である。

そして、9代儀山公の弟にあたる大條孫三郎宗行が徳本寺を開かれた開基となつている。室町初期の頃である。伊達家から分家して、伊達郡大條邑(現在の福島県伊達市梁川町)に住んだので、大條を姓とし、大條

### 家始祖となる。

1616年大條8代宗綱の時、現坂元に知行替えとなる。時の藩主は伊達17代貞山公。(1601年に伊達藩を開く)相馬藩に対する最前基地という位置づけだったので。

その後大條家は代々、坂元の蓑首城主として継承される。そして明治5年大條17代道徳の時、藩主慶邦の命により、伊達姓に復することとなり、伊達宗亮と改称した。それは戊辰戦争後、伊達藩は領地を減らされたが、藩の存続を認められるという戦後処理を行ったのが宗亮であり、その功労によるものという。

その宗亮から4代後の子孫に「伊達みきお」なる人物がいる。今をときめくサンドウィッチマンの人である。NHKテレビでそのことが紹介されたものだから、時折そのお墓を訪ねてくる方がいる。サンドウィッチマンは芸能界で天下を取ったと言え

るほどの存在なのだろうか。その影響は少なくない。世が世ならば「みきお」が、徳本寺を支えて、笑い溢れる観光寺になつて、多くの方に参詣いただいていたかもしれない。肝心のお墓がどこにあるかといえ、徳本寺の墓地内にある。以前は奥まった小高いところであり、樹木に覆われていたので、近寄り難かつた。東日本大震災後、流出した中浜墓地を移転するため、本堂の後ろの境内地を造成して、中浜新墓地となつた。そのため、樹木等がなくなり、いわゆる「殿様のお墓」を、容易に望めるようになった。現在は大條18代伊達宗康の次男文雄が継いだ姓の内山家子孫が、管理しているお墓である。大條17代伊達宗亮のお墓は、さすがに威容を誇る大きさである。硯寛院殿竹堂翠雨大居士と諡されている。因みに、400年前の1616年には、洋の東西で巨星が没している。徳川家康とシェークスピアである。勿論徳本寺の移転と関わりがあるわけではない。ただ、400年という時の流れに思いを馳せるひとつの便にはなる。果たしてこれから先400年後の人に、便となるようなものを徳本寺は残していけるだろうか。移転400年という巡り合わせを、大震災からの復興と重ねて、次世代に伝えたいものである。



伊達宗亮の墓



伊達みきお

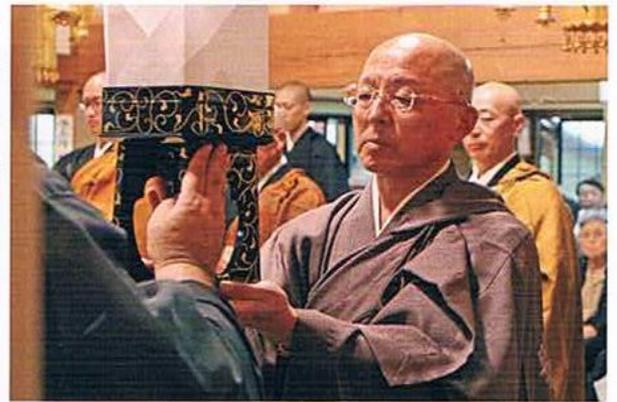
その宗亮から4代後の子孫に「伊達みきお」なる人物がいる。今

## 徳本寺坂元移転400年報恩供養法要

徳本寺は今から576年前の嘉吉元年（1441）、福島県梁川町大枝村（現在の伊達市梁川町）に、大條公の菩提寺として開創された。大條公の知行替えに伴い、元和2年（1616）に坂元に移転する。昨年移転400年を迎えた。

9月22日の大施餓鬼会に併修して、「移転四百年報恩供養法要」を行う。檀信徒に移転の経緯を説明。御詠歌講員による『開山忌御和讃』のお唱えがあった。その2番の歌詞には「岩をば起こし土を掘り 荊棘の谷間を踏み分けて 塗れし汗の幾年か 重ねて精舎は開かれぬ」とある。寺の始まりは、福島県の地であるが、この坂元に移転してからも、一から築きあげなければならなかったはずである。初代と同じ難儀をして、第3世洞観曹大和尚の代に移転が成ったのである。

坂元村誌によれば、当初の寺は現寺前の地ではなく、南白小路にあった。そこで貞享2年（1685）と安永5年（1776）の2度火災があり、その後寺前に移転したという。



お供えの儀式

現本堂は、嘉永4年（1851）に建立されている。

それやこれやの先人の労苦に思いを馳せ、恩に報ゆるお香を一片焚き、感謝の誠を捧げた。

この度の東日本大震災は元より、江戸時代の飢饉や幾たびかの戦争を経ての400年である。その都度、筆舌に尽くし難い困難を乗り越えて、家を守り、故郷を耕し、寺を護持してきたご先祖の汗と涙の歴史があったのである。

東日本大震災からの復興がまた完遂したわけではないが、新しい歴史の始まりだったと子孫から思われるようでありたい。

台掌

## 「大條家ゆかりの茶室」 保存を！

坂元の大條公の要害蓑首城の近くに、大條家ゆかりの茶室がある。伝承に、伊達家が秀吉より拝領したとある。後に大條家が伊達家より下賜され、昭和7年に現地に移築された。町指定文化財であるも、老朽化が甚だしく、大震災で著しく損傷し、存亡の危機である。今修復保存しなければ取り返しのつかないことになる。町内外の専門家を含めた有志で「ゆかりの茶室にひかりを当てるつちやGO 山元『いいつ茶』組」を設立し、保存活動を開始。徳本寺ともゆかりの深い茶室です。震災から復興へ向かう中で、新たな町の活性化につながるはずですので、みなさまのご理解ご協力をお願い致します。



老朽化しているゆかりの茶室  
＝大條家ゆかりの茶室の保存と活用を願う会撮影

## 位牌室にお参りしましょう

- ◆ 本堂後方にある位牌室に各家の位牌が安置されています。
  - ◆ 毎朝、住職が各家先祖代々の供養を行っております。
  - ◆ ご年始・お盆・お彼岸等お寺参りの際には、各家の位牌の前で手を合わせましょう。
  - ◆ まだお位牌を安置されていない方は、徳本寺までご相談ください。
- ◎ 徳本寺歴代住職のお位牌・開基家（大條家歴代城主）のお位牌も安置されています。



大條家位牌

# 「大條家ゆかりの茶室」保存を！

## — 歴史的に貴重な茶室の勉強会を開く —



養生カバーが施された茶室

徳本寺は今から57年前の嘉吉元年（1441）に、大條公の菩提寺として開かれた。その大條公は仙台藩に仕えていた。功あり天保3年（1832）に、大條15代道直が12代仙台藩主伊達斉邦から茶室を下賜された。その茶室は伏見城の遺構で、伊達政宗が秀吉より拝領したとの伝承もある

【※①】。当初は仙台にあったが、昭和7年大條公の養首城社のある山元町坂元に移転。

木造平屋の書院風茶室で、仙台藩の茶の湯文化を伝える唯一の遺構であり、県下最古の歴史的にも貴重な建物である。現在は山元町指定文化財となっている。

残念ながら、老朽化に加え、東日本大震災により著しく損傷している。町の復興を思うとき、震災によって歴史的建造物が多く失われた中で、何とか乗り越えたこの茶室を今修復保存することも、復興への道のり信じ、保存運動が立ち上がった。

一昨年秋に「ゆかりの茶室に光を当てるつちやGO 山元『いい茶組』が発足した。（発起人：岩佐大輝 庄司アイ 三浦寛也 早坂文明 代表：清水ますみ）茶室が元の姿に戻ったら、私達も町も、もっと元気になれる。茶室の修復と保存を実現し、ステキな活用を夢見、考える山元町民の会である。

昨年7月16日徳本寺において、「いい茶」組が企画し、NPO法人ポラリス主催にて、「とことん味わう江戸時代の大條家ゆかりの茶室」という勉強会が開かれた。

当日は住職より、徳本寺と大條家並びに伊達家との関係について、山形大学永井康雄教授（建築史）は、ゆかりの茶室の歴史的価値について、

やまもと民話の会代表庄司アイさんの茶室に伝わる話など、多岐にわたって茶室に光を当てる勉強が行われた。更には、伊達藩の茶道を伝える石州清水流家元清水道玄さんによる伊達藩の茶道についてのお話とお点前を披露していただいた。



勉強会

参加者からは、「地元にながら知らないことはかりで恥ずかしくなりました。こんなゆかりの地に住んでいることが幸せです。埋もれている山元の魅力をもっと発信してほしい。官民一体となったの保存が大切です」などの感想が寄せられた。

是非、これからの本格的な修復保存に向けて、みなさんのご理解ご協力をお願いします。

【※①】 文書記録が発見されていない上、移築改築の経緯があるので、桃山時代の遺構そのままではなく、江戸時代末期の建築というのが妥当だろう。正確には更なる検証が必要、というのが専門家の見解である。

【※②】 平成29年の主な経過  
 ・1月 山元町長に修復保存の要請、署名・寄付金を手渡す。

・4月 養生カバーの予算化決定9月完成  
 ・9月 朝日新聞文化財団からの助成金100万円決定

・12月15日 東日本放送「夕方LIVE! キニナル」で「ゆかりの茶室」の特集を放映（連続予定）

**位牌堂に  
お参りしましょう**

- ◆ 本堂後方にある位牌堂に各家のお位牌が安置されています
- ◆ 毎朝、住職が各家先祖代々の供養を行っています
- ◆ ご法事・ご年始・お盆・お彼岸等お寺参りの際には、各家のお位牌の前で手を合わせましょう
- ◆ まだお位牌を安置されていない方は、徳本寺までご相談ください
- ◎ 徳本寺歴代住職のお位牌・開基家（大條家歴代城主）のお位牌も安置されています

「茶席のごちそうは掛け軸です」と、石州清水流の茶席の時に教えていただきました。石州清水流は仙台の伊達藩の茶道を司った流派です。床の間に掲げられた掛け軸は、家元に伝わる伊達藩最後の殿様である伊達慶邦(よしくに)の書です。「萬寿無疆(ばんじゅむきょう)」即ち「限りなく長命で平和でありますように」という言葉でした。14代家元清水道玄様が、直々にお持ちになられたのです。7月16日に徳本寺で行われた「大條家ゆかりの茶室の勉強会」の時のことです。

大條家は伊達家と縁戚にあり、伊達藩の要職を担いつつ、ここ坂元を治めていました。徳本寺の開基家でもあります。天保3年(1832)大條道直は、伊達藩の後継者問題で功績を挙げたため、伊達斉邦(なりくに)から、茶室を下賜されました。この茶室は伊達政宗が豊臣秀吉からいただいたという言い伝えがあるほどのものです。ただ専門家の建築としての見立てでは、そこまで古くはないようですが、伊達藩の茶の湯文化を伝える茶室としては、現存する唯一のものということです。

当初は仙台城から、大條家の仙台の屋敷に移築されました。その後、昭和7年に坂元の地に移されました。現在は町指定文化財となっていますが、管理が万全でなかった上、東日本大震災の揺れで、大きな被害を受けました。しかし、町全体が甚大な被害があったため、これまで文化財の修復にまでは至りませんでした。そのような中で、茶室の文化財的価値を知る専門家や有識者の間からは、早急な修復の必要性が訴えられていました。

そこで、茶室の保存と活用を願って「ゆかりの茶室にひかりを当てるっちゃGO 山元『いい茶』組」が組織されました。その企画を受けてNPO法人ポラリスの主催で、茶室の価値を再認識して、伊達藩の茶の湯の文化にも直接触れる機会を持ったわけです。専門家の報告によれば、茶室は様々な増改築の経緯があり、正確な築年代の特定にはさらなる検証が必要とのこと。ただ、桃山時代の部材の存在の可能性も秘めており、随所に意匠を凝らした書院風茶室として数少ないすぐれた遺構であるとのことお墨付きもいただきました。

茶席では武士の茶道と言われる石州清水流の、一挙手一投足流れるようなお点前のお茶をいただき、伊達家そして大條家の歴代の殿様に思いを馳せました。幕府崩壊の動乱の中、伊達家最後の殿様として、「萬寿無疆」と揮毫して、石州清水流に伝えた思いはどこにあったのでしょうか。現代で刀を持つ武士はいませんが、茶の湯の文化は、綿々と受け継がれてきています。作法はその通りですが、茶の湯の文化の象徴として、大條家ゆかりの茶室を残していかなければならないと強く感じました。戦乱も大震災も見つめて、その生き証人のように辛うじて存在している茶室です。「萬寿」の思いを込めて、百年先二百年先に伝えるために、保存に力を尽くせるのは、今の私たちをおいて誰もいない茶、ということではないでしょうか。

琵琶湖は日本一大きな湖とはいえ、東京23区がすっぽり入る広さとは知りませんでした。また島が4島も浮かんでいます。そのうちの竹生島(ちくぶしま)には、国宝も存在するというから驚きです。それは西国三十三観音霊場第三十番札所の宝厳寺(ほうごんじ)にある唐門です。

豊臣秀吉が建てた大阪城極楽橋の一部で、大阪城の遺構としては唯一現存するものです。極楽橋は秀吉をまつる京都の豊国廟に移築され、その後秀吉の子の秀頼の命により、竹生島に移されました。今から400年以上前の1603年のことです。

滋賀県では7年をかけて、唐門を含めた寺の4棟の修理をしました。その結果屋根の軒を支える組物の部材や曲面の仕上げ具合などから、桃山時代の建築で、秀吉が関わっていたという言い伝えが裏付けられました。移築の際に島の地形に合わせて分割、改変されたようですが、今年移築当時の彩色などが復旧して絢爛豪華な姿が蘇りました。

先般その札所をお参りする機会がありました。唐門は見事な檜皮葺(ひわだぶき)で、建物全体が総黒漆塗りの上に金鍍金(きんときん)の錆金具(かざりかなぐ)がちりばめられています。門の扉には極彩色の花柄の彫り物が施してあります。門をくぐった先には千手観音が鎮座し、目の前は海のように広がる琵琶湖という景色。観音様の台(うてな)に抱かれるかのような安らぎを覚えました。

それにしても、昔の建物移築の技術には目を見張るものがあります。実は我が町にも秀吉ゆかりの建物が移築されて現存しています。それは徳本寺の開基家である大條家の茶室です。京都伏見城の遺構で、秀吉より伊達政宗が拝領し仙台二の丸に移築。その後、天保3年(1832)に伊達家世継ぎ問題における功績をねぎらわれて、大條道直が伊達斉邦(なりくに)より拝領して、仙台川内に移築。更に仙台支倉通りに移築。昭和7年に山元町坂元の現在地に移築したと伝えられています。

建物の一部に桃山文化を偲ばせるものがあります。絹緞(けんどん)襖の把(にぎ)り手には桃山時代を示す「天正10年8月」との記載があります。しかし専門家の正式な鑑定が及んでいないので、「秀吉の茶室」は言い伝えに留まっています。それでもこの茶室は仙台城唯一の遺構であり、茶室としては県下最古の貴重な建物です。現在では町指定文化財になっていますが、管理不十分の上、東日本大震災の影響もあり、老朽化が激しいのです。最近やっとその価値が見直され、修復保存の検討が進められています。一般公開が待たれるところです。

移築を重ねている建物には、それだけの価値があるからでしょう。ある人が言いました。「いいものしか古くなれない」。古いという漢字は、祖先の頭蓋骨を描いた象形文字とか。そりゃ大切にしなければいけませんね。

# 「山元町指定文化財茶室等整備・活用検討委員会」 の活動について

山元町教育委員会は、  
“山元町の歴史的建造物の保存と活用を生かしたまちづくり”を目的に、  
「山元町指定文化財茶室等整備・活用検討委員会」を平成30年8月に設置し、  
現在まで、計9回の検討委員会を開催した。  
委員会の活動についてご報告します。

検討委員会 委員 千石信夫

2020年10月

## 検討委員会の設置(河北新報に掲載)



## 主旨(要綱)

検討委員会の要綱では、  
山元町指定文化財茶室・葦首城大手門・板倉・葦首城跡・大條氏御廟の整備活用について、  
専門的見識を有するもの及び当該地域住民の意見を十分に反映させ、山元町文化財保護委員会  
に提言を行うためと記している。

## 委員会メンバー

検討委員は、地域住民6名と、専門的見識者2名を含む8名で組織。

## 委員会の開催

第1回検討委員会が平成30年8月22日に開催され、現在まで9回開催されている。

## 委員会での検討内容

整備する範囲、及び各ゾーン別整備方針、そして新たな調査結果や資料等から茶室の復元方法  
などの検討、そしてニーズに合った活用方法などの検討を行い、  
令和2年3月時点で、整備基本計画報告書としてまとめられている。  
基本的には、平成23年2月に策定された保存活用計画から、踏襲すべきところは踏襲し、  
震災後の新たな整備活用方法や将来像を検討し、提言させていただいた。

## 委員会の今後の検討事項

今後は、修復する茶室の工法や仕様のなものの考え方などを検討していくことになると思われる。  
現在、町では三の丸ゾーンの整備基本設計を進めており、  
茶室の修復工事については、令和4年度の利用開始を目標としている。

# 「山元町ふるさと歴史学習会」の活動について(ご紹介)

山元いっ茶組 清水ますみ(文責)

会の重要な基本行事の一つとして、蓑首城址、大條家霊廟、茶室周辺の保全活動を続けておられるのが「山元町ふるさと歴史学習会」です。

保全活動の歴史は古く、会が発足した昭和63年からとのこと。毎年かさず、清掃、草刈り、点検整備を続けておられます。

山元いっ茶組とは、2018年6月の「大條家ゆかりの茶室フォーラム」開催にあたり、共催させていただきました。

その後、「大手門の外に看板を建てて、中にある茶室の存在が外からも分かるようにするべきだ」と会長が発案され、フォーラムでの余剰金をこれにあてるべく、寄付金を役場に持参した時も、ご一緒させていただきました。

そもそも、「山元町ふるさと歴史学習会」の本来の名称は「邑史会」。坂元地区が発祥で、当然大條家との直接のお付き合いある会員も多くおられます。

茶室についてはもとより、大條家史跡や文化財への造詣は深く、地域歴史の知識についての研鑽を深く積んでおられます。

現在の会員数は43名。議員さん3名も会員とのこと。茶室に最も近い関係にある町民の会と言えると思います。

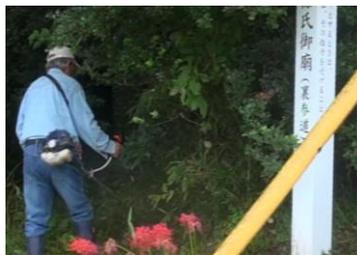
講師を招へいしての講演会や勉強会、歴史視察旅行なども活発に開催されています。会報「邑史随筆集」は、公民館などの棚にも配布されていますので、会での勉強内容などを一緒に学んでいただけたと思います。

恒例の草刈りなどの保全活動には、会員以外の町民も参加・お手伝いに参集出来たら、これまたステキです。

令和4年度の茶室活用開始に向けて、その中核になる心強い方々がおられる頼もしい「山元町ふるさと歴史学習会」(邑史会)です。

2020年10月

## 保全活動のご紹介



2020年7月1日  
河北新報

## 茶室看板の設置

2020年5月23日  
河北新報

宮城・山元  
被災茶室看板で存在PR  
地元7団体寄付で町制作

宮城・山元地区の被災茶室の存在をPRするため、山元町が地元7団体の寄付で看板を制作し、茶室の周辺に設置した。看板には茶室の歴史や文化財としての価値が記されている。また、茶室の周辺には、大條家ゆかりの史跡や文化財も点在している。茶室の活用は、地域の歴史を伝える重要な役割を果たしている。また、茶室の周辺には、大條家ゆかりの史跡や文化財も点在している。茶室の活用は、地域の歴史を伝える重要な役割を果たしている。

3-11震災金 216 820円  
8億4961万8686円

宮城・山元地区の被災茶室の存在をPRするため、山元町が地元7団体の寄付で看板を制作し、茶室の周辺に設置した。看板には茶室の歴史や文化財としての価値が記されている。また、茶室の周辺には、大條家ゆかりの史跡や文化財も点在している。茶室の活用は、地域の歴史を伝える重要な役割を果たしている。

## 邑史随筆集 (会報)

山元町ふるさと歴史学習会  
邑史随筆集 (会報)  
第19号

「奥州の職者伊達政宗」

山元町ふるさと歴史学習会  
邑史随筆集 (会報)  
第19号

山元町ふるさと歴史学習会  
邑史随筆集 (会報)  
第19号

山元町ふるさと歴史学習会  
邑史随筆集 (会報)  
第19号

# これまでの「山元いっ茶組」の茶室保存活動 と 紙芝居の予告

町の方々に、このすばらしい「茶室」のことを広く知っていただきたい。  
文化財に資する茶室の保存を、早急に対処していただきたい。  
その思いで、2016～2020年の4年間、「山元いっ茶組」活動をしてきました。  
これまでの活動記録をまとめてみました。  
この記録が、これからの茶室活用に向けて、何かの参考になれば幸いです。  
また、制作中の紙芝居「大條家ゆかりの御茶室ものがたり」の予告です。お楽しみに！

ゆかりの茶室にひかりをあてるっちゃGO **山元いっ茶組**

2020年10月

## 発足と役場へのアクション

事の始まりは

震災後すぐの文化庁による「文化財ドクター派遣」事業で、茶室調査を担当した建築家から、「修復提案を出しているのに返事がない」と偶然聞いたこと。

- ・2016 夏 「大條家ゆかりの茶室の保存と活用を願う会」発足  
建築等の専門家・有識者の会26名 代表：永井康雄(山形大・文化財ドクター代表)
- ・2016 秋 ゆかりの茶室にひかりをあてるっちゃGO「山元いっ茶組」発足  
山元町地元の会4名 代表：清水ますみ 岩佐大輝/庄司アイ/早坂文明/三浦寛也
- ・2016 冬 署名と寄付集め
- ・2017.1.31 山元町長に面会 修復・保存の要請  
署名(378名)、寄付(292,383円)、「茶室活用アンケート」を提出
- ・2017. 6 朝日新聞文化財団の助成金を紹介
- ・2018.7.30 山元ふるさと歴史学習会と共同で寄付

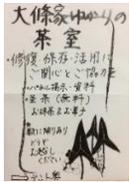
寄付  
2  
回

- ① 2017.1.31 **292,383円**  
・任意寄付(町外、県外含む)  
・養生カバー、それを説明する看板の即設置に
- ② 2018.7.30 **71,683円**  
・フォーラム開催余剰金  
・門外の掲示板に(茶室が中にあることが分かるもの、養生カバーの説明)

## 茶室保存活動

### □講演会(勉強会・イベント)。6回

- 1) 2016.11.19 学ぼう。山元町のすごい歴史 ～古代の線刻壁画と江戸の大條家ゆかりの茶室～  
(於 合戦原学堂) 約90名 主催：ポラリス 講師：永井康雄教授
- 2) 2017.7.16 学ぼう。山元町のすごい歴史 ～とことん味わう 江戸の大條家ゆかりの茶室～  
(於 徳本寺) 約90名 主催：ポラリス 共催：石州清水流 お呈茶付き
- 3) 2018.6.9 大條家ゆかりの茶室 フォーラム  
(於 おもだか館) 約170名 共催：山元町ふるさと歴史学習会 講師：伊達宗行氏、佐藤憲一氏他
- 4) 2018.11.29 山元町の「大條家ゆかりの茶室」保存活動と石州清水流の茶会  
(於 仙台メディアテーク) 約80名 主催：JIA(アーキテクツウイーク) 講師：伊達宗行氏、清水道玄氏他 石州清水流のお呈茶
- 5) 2019.9.22 千石邸古民家コンサート「民話の音色」鷲峰企画vol.9  
(於 千石邸) 約130名 協力：千石家 坂元神社 パネル掲示/資料配布/お呈茶
- 6) 2019.11.4 坂元町区健康増進歩こう会・ふれあい交流会  
(於 茶室・霊廟) 約90名 協力：坂元神社 茶室現場での解説/パネル説明/資料配布



### □資料の配布活動。4回

- 1) 2018.10.31 政宗ワールドpj会員ツアーの茶室案内(茶室前) 25名
- 2) 2019.10.27 第13回徳本寺テレホン法話ライブ(徳本寺) 約110名
- 3) 2020.10.11 宮城県美ネット出前講座in亘理(亘理中央公民館)約60名
- 4) 2020.10.31 山下駅側某所 83名

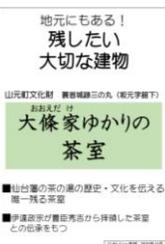


### 作成資料(講演会等での配布資料/役場提出資料以外)

- ・冊子 「大條家ゆかりの茶室 思い出アルバム」 2017.8
- ・パンフ 「お茶室ものがたり」庄司アイ氏の聞き語り 2017.9
- ・ミニカード 「茶室の推移歴史/大條家について」 2019.10
- ・パンフ 「地元にもある！残したい大切な建物」 2020.10
- ・チラシ 「私達はこうに関わってきた」 2020.10.31  
(レジメ) ～令和4年度の利活用開始に向けて～

### 寄稿原稿

- ・「郷土 わたり」121号(亘理郷土史研究会) 2019.4  
『山元町の文化財 政宗下賜の茶室を再建へ』 山元いっ茶組清水ますみ



# メディアなどへの露出

- 1) 2017.2.7 「仙台藩家臣・大條家ゆかりの茶室／大震災で被害修復手付かず」 河北新報
- 2) 2017.6.17 「山元・NPOポラリス勉強会開始 歴史学んで町に誇りを  
八重垣神社、大條家ゆかりの茶室 被災の史跡などテーマ」 河北新報
- 3) 2017.8.5 「修復・活用へ 町民ら奮闘 勉強会や署名活動展開」 河北新報  
徳本寺での勉強会報告記事
- 4) 2017.12.15 「夕方LIVE！キニナル」～大條家ゆかりの茶室～ KHB東日本放送(5ch)  
出演：庄司アイ、早坂文明
- 5) 2018.6.7 「大條家茶室 修復へ議論 9日山元でフォーラム」 河北新報  
フォーラムの予告記事
- 6) 2018.6.21 「仙台藩主ゆかり大條家茶室 震災で被害 価値再確認」 河北新報  
フォーラム内容の報告記事
- 7) 2018.12.4 「山元・大條家茶室由来探る 仙台で講演会80人参加  
石州清水流お点前披露」 河北新報  
メディアテークでの講演会・お呈茶の取材記事
- 8) 2020.5.23 「被災茶室 看板でPR 地元2団体寄付で町制作」 河北新報

大震災で被害  
修復手付かず

専門家 保全の必要性訴え



被災の山元町心材 大條家ゆかりの茶室



その他)

- 2018.3 「Happyやまもと 山元ものがたり 大條家ゆかりの茶室」 NPO法人 ポラリス  
 2018.5 「～大條家ゆかりの茶室～宮城県山元町徳本寺での茶会」 白木岳斎 石州清水流機関紙『関』  
 2018.10 「今に生きる大條 一六百年の歴史の中で一 茶室問題」 伊達宗行 『藩報きずな』仙台藩志会

予告

## 紙芝居「大條家ゆかりの御茶室ものがたり」制作中

子供達にも茶室の歴史が理解できるように  
茶室を大切に有益に使う町民に育てて欲しい

- ・2020年内完成を目指して、鋭意制作中。
- ・データ化して小中学校に配布を考えています。
- ・製作費用は2018年開催フォーラム余剰金、今までのカンパと、ご寄付で。
- ・制作作業は、地元町民の皆様の参加ご協力もお願いして。。

東北は宮城県の南部、太平洋沿い、福島県と接する  
亶理郡山元町に、古～い茶室があります。

江戸時代の末期、大條家が、仙台藩伊達家から拝領し、時を経て、  
山元町に移築されました。

仙台藩における茶の湯文化・歴史の流れを伝える茶室として、文化財的  
価値は非常に高く、仙台藩の茶室として唯一残る貴重な建物です。  
伊達政宗が豊臣秀吉から頂戴した茶室とも言い伝えられています。  
平成14年(2002年)には、山元町の文化財に指定されました。  
大條家は、仙台藩伊達家に仕え、養首城を居城とし、明治維新までの  
約250年間、山元町 坂元一帯を治めました。

それでは！ 養首城「大條家ゆかりの御茶室ものがたり」  
はじまり はじまり。

あれ一つ？ 小学校に転校してきた、みちお君がお母さんと  
やってきたよ！

絵：ポラリス